

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向	<消費・雇用>成熟社会における消費マインドとして、短期・利根的な行動よりも中長期の計画的な消費への選好が強くなっている。その意味で、雇用・所得関係の改善に加え、将来の安定・安心への礎づくりが重要。<企業収益・輸出入・設備投資>円安の恩恵に与する大企業の企業収益は一般的に好調だが、内需特化の中小企業(特に非製造業)等には逆風。一方、大企業の設備投資は、現状マインドの悪化はみられていない。<取るべき対応>上記消費選好の変化等を受け、従来の短期的な「景気判断」では十分に日本経済の構造変化を捉えにくくなっている。将来の安定社会の構築に向け、消費税率の引き上げ等、基盤強化に与する長期対策が必要であろう。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	当行は10月、地域課題の抽出を行う目的で民間企業等約170件を対象にヒアリング調査を実施。地域創生に向けては、▽従来の行政区域等にとらわれず、各地域の有する強み・弱みを共有したうえで技術やノウハウがより広範かつ有機的につながる必要があるとあり、▽金融機関においても、積極的にリスクマネーを供給する一方、情報提供・ビジネスマッチング役を担うことが求められているとする提言をまとめた。 地方圏・大都市圏での分配や地域間のパイの奪い合いではなく、海外の成長を取り込むプラスサムを目指し、対日投資促進やインバウンド強化などといった、現実的かつ具体的な中・長期のアクションプランを策定する必要もあるだろう。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	円安になっても、▽輸入浸透度が高まることで輸入が減りにくい体質に、また▽海外投資の進展によって輸出が伸びにくい体質になっている。その結果、円安の進行が交易条件を悪化させ、コスト増を招いて一時的な貿易赤字の拡大を招いている。 今後、仮に海外経済が悪化し市場でリスクオフの動きが広がれば、為替や株価の安定性にも影響は及ぶ。改善しつつある家計・企業のマインドが反転し、外需だけでなく内需までもが落ち込む可能性・リスクが潜んでおり、日本経済のアキレス腱たる「国債への信認問題」にも注視しつつ、海外経済の下ぶれリスクには引き続き留意が必要だろう。